

特別講演 2

「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の診断と治療」

北海道大学病院 光学医療診療部 診療教授

加藤 元嗣 先生

2013年2月に「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」に対して除菌治療の適用拡大がなされ、H.pylori 感染者全員に保険診療で除菌を行なうことができるようになった。H.pylori 除菌で組織学的胃炎は改善し、萎縮、腸上皮化生も改善が期待できる。また、胃癌をはじめとする H.pylori 関連疾患の予防が期待できる。保険診療上、「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」に対する H.pylori 除菌は①内視鏡検査による「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」を確認、②H.pylori の感染診断、③H.pylori 陽性であれば除菌治療の順で行う。先に内視鏡検査を行なうのは、胃癌をスクリーニングするためである。また、感染診断や除菌判定で胃角部に集合細静脈の規則的な配列(RAC)を認めない場合には H.pylori 胃炎を疑う。H.pylori 除菌による胃癌予防効果を含め、実地診療における H.pylori 診療の疑問にお答えしたい。